

協議会会長より

会長メッセージ

国立大学法人 機器・分析センター協議会会長
栗原靖之（横浜国立大学）

今回のシンポジウムのテーマは
「教育研究基盤エコシステムの構築と大学の多様な
未来像 ～自律と共創による知の循環～」
といたしました。

「教育研究基盤エコシステム」という言葉は少しわかりにくいかもしれません。しかし、これは単なる共用・整備・高度化にとどまらず、人材育成を含めて正のスパイラルとして循環させ、我が国全体の教育研究力を押し上げるための新たな概念です。

一方で、私たち国立大学は避けられない少子化の波に直面しています。高難易度の私立大学を含めると、18年後には3.8人に1人が国立大学あるいは難関私大に入学できる状況となります。試算すれば、偏差値60の大学が54程度にまで下がることになります。こうした中で、果たして国立大学は「我が国を支える知の高等教育機関」としての使命を果たせるのでしょうか。

そこで掲げたのが「大学の多様な未来像」です。これは決して抽象的な理念ではなく、国立大学に所属する私たち一人ひとりが真摯に向き合わなければならない現実的な課題です。そして、このエコシステムを「向上のスパイラル」とするためには、各大学・機関、さらにはその関係者すべてに、自律と共創の強い覚悟が求められます。その決意を副題に込めました。

今回の講演では、J-PEAKS 採択校として先端的な取

り組みを進める岡山大学・那須保友学長、そして小規模ながら研究基盤の適正整備に果敢に取り組まれている帯広畜産大学・得字圭彦先生にご登壇いただきます。立場の異なる大学の実践を知ること、聴講される皆様が新たな気づきを得、自らの一步を踏み出す勇氣を持っていただくことを願っています。

さらに今年は短時間ではありますが、ポスター展示を行います。各施設の取り組みを紹介し、情報交換や議論を通して新しい発想が生まれる場としたいと考えています。文部科学省の担当者や講演者も加わり、活発な議論が交わされることを期待しています。

最後に、今年は私にとって会長職の最終年度となります。この6年間を振り返れば、皆様のご期待に十分に答えられなかった部分も多く、反省も尽きません。ただ一つ確信しているのは、退行や迎合ではなく、現場に根ざした協議会の姿勢を守り抜くことこそが未来への責任だということです。今後、この協議会をさらに発展させるためには、新たな視点と実行力を備えた会長を皆様に選出していただく必要があります。そのことを心よりお願い申し上げます。

活動報告

第4回小集会 報告

令和7年9月9日(火) 13:30～14:30 に、オンラインにて第4回小集会「研究基盤を支える人材のミッションと評価」を開催しました。

本小集会では、令和7年度に提案した「エフォートテーブル」の取り組みの背景と趣旨について、111名（49機関、教員19名、技術職員64名、事務職員15名、URA4名、その他9名）の参加者と活発な意見交換を行いました。

はじめに、文部科学省人材政策課 人材政策推進室 室長補佐の大場様よりビデオメッセージをいただき、その後以下のプログラムに沿って進行了ました。

プログラム：

1. 本取り組みの趣旨説明（宇都宮大学 松本太輝）
2. 調査結果とエフォートテーブル提案の報告（佐賀大学 森加奈恵）
3. 文科省の技術人材ガイドラインについて情報提供（分子科学研究所 中村敏和）
4. 質疑応答
5. 閉会の挨拶（大分大学 西口宏泰）

司会（電気通信大学 小林利章）

小集会では、「エフォートテーブル」の取り組みの説明に加え、「共用設備に関わる人材の業務内容と評価についてのアンケート」の集計と分析結果、文部科学省で議論されている「技術人材ガイドライン」についての情報提供を行いました。参加者からは多くの質問が寄せられ、様々な機関にとって参考となる内容だったと考えています。今後、シンポジウム等で引き続き議論を深めて参ります。

2025 年度総会・シンポジウムについて(第 4 報)

国立大学法人機器・分析センター協議会

令和 7 年度総会・シンポジウム

【開催案内】

主催：国立大学法人機器・分析センター協議会

日程：2025 年 10 月 10 日(金)

会場：長崎市 出島メッセ 1 階

（メイン会場） 会議室 102

（ポスター会場） 会議室 101-A

〒850-0058 長崎県長崎市尾上町 4-1

<https://dejima-messe.jp/>

開催方式：対面 + 配信（Teams もしくは Zoom）

懇親会：サンプリエール

長崎市元船町 2-4

参加者総数：240 名（現地参加：149 名）

ポスター発表：46 件

総会・シンポジウム参加費：無料

懇親会参加費：7,000 円(事前振り込みのみ)

事前振り込み〆切：令和 7 年 10 月 7 日(火)

振込先： ゆうちょ銀行 ○五八支店

普通口座 口座番号：8967266

口座名義： 国立大学法人機器・分析センター協議会
（【記号】10550 【番号】89672661

【開催プログラム】

午前の部

9:00～10:00 総会(入会承認、次期会長選など)

10:00～11:30 ポスターセッション

午後の部

12:30～ シンポジウム

テーマ

「教育研究基盤エコシステムの構築と大学の
多様な未来像 ～自律と共創による知の循環～」

12:30～12:35 開会のご挨拶 長崎大学長 永安 武

12:35～12:40 趣旨説明 協議会会長 栗原 靖之

12:40～13:10

「国立大学法人等の学術研究を取り巻く状況について」

熊谷 果奈子

（文部科学省 研究振興局 大学研究基盤整備課
課長補佐）

13:10～13:50

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-
PEAKS）～社会と大学の変革を実現させる岡山大学の挑戦～」

那須 保友

（岡山大学 学長）

13:50～14:30

「やってみてわかった！小規模だからこそその設備共用 ～北見工大との連携と外部評価～」

得字 圭彦

(帯広畜産大学 共同利用設備ステーション長)

14:30～14:45 休憩

14:45～15:30

共創の主体となる技術系人材の在り方

14:45～15:15

「研究開発マネジメント人材及び技術職員の評価、処遇、雇用等人事制度のガイドライン策定について」

大場 亮平

(文部科学省 科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室 室長補佐)

15:15～15:30

アンケート報告 幹事会

15:30～15:40 休憩

15:40～16:40 パネルディスカッション

ファシリテーター：栗原靖之（協議会会長）

パネリスト： 那須 保友（岡山大学）
得字 圭彦（帯広畜産大学）
熊谷 果奈子（文部科学省）
大場 亮平（文部科学省）
三隅 将吾（協議会副会長）

16:40～16:55 クロージング

次期開催案内 唐牛 譲（大阪大学）

次期会長選応募状況

次期会長候補者について

2026 年 3 月 31 日をもって現会長が任期満了となることから、2025 年 10 月 10 日開催予定の今年度の総会（長崎）で次期会長の選出を行います。

これに伴い、2025 年 8 月 20 日から 2025 年 9 月 19 日まで次期会長候補者の募集（立候補、推薦）を行いました。

結果として、立候補届の提出は無く、推薦届出書が 1 通提出されました。

幹事会で審査を行った結果、立候補者資格等を確認し、国立大学法人機器・分析センター協議会会則第 6 条および 7 条にもとづき、次期会長（任期：2026 年 4 月 1 日～2029 年 3 月 31 日）の選出(信任投票)を 10 月 10 日、長崎で開催される機器・分析センター協議会総会において行います。

次期会長候補者

山内一夫氏

(沖縄科学技術大学院大学 コアファシリティ・機器分析セクション セクションリーダー)

また、議決権をお持ちの方が総会に出席されない会員校には、幹事会より委任状のご提出を依頼いたしますので、ご対応のほどお願い申し上げます。

会員校の活動報告

新たなコラムとして、会員校や技術職員内の個人、グループにおける特徴的・先進的な取り組みを事例として紹介し、会員間の新たな交流や技術職員の活動の幅を広げることを目的に不定期で掲載します。初回は鳥取大学を含む 6 大学が共同で行う「～能登の子どもたちへ贈る科学実験教室～」プロジェクトについて、これまでの経緯や活動内容について、2 回にわたり掲載予定です。今後取組事例等を取り上げてほしいという要望がありましたら、協議会広報委員会までお知らせください。

全国大学技術組織による理科支援プロジェクト

in 能登

○河尻 直幸, 安藤 敬子, 岩田 千加良, 大村 敏康, 馬場 恵美子, 松浦 香織, 松浦 祥悟, 山本 博昭, 横野 瑞希（鳥取大学 技術部）

1. はじめに

鳥取大学を中心に金沢大学、名古屋工業大学、東北大学、神戸大学、大分大学の6大学が共同で実施している「全国大学技術組織による理科支援プロジェクト in 能登」について報告する。

本事業は、令和6年に地震・豪雨と2度の災害が発生した能登地域の子どもたちに理科教育を介して科学に触れる機会と心から楽しめる時間を届けることを目的としている。本稿を執筆している時点では、能登地域での活動は10月ごろを予定している。そのため、本報告は2回に分けて掲載し、1回目の今回は事業資金を集めるために実施したクラウドファンディングの経験を中心に執筆する。

2. 理科支援プロジェクトの始動

鳥取大学技術部では、子どもたちに科学への興味・関心を深めてもらうことを目的に「出前おもしろ実験室」プロジェクトを平成18年度から実施している。本プロジェクトでは、技術職員と大学生が小・中学校などに出向いて体験型の科学実験教室を開催している。これまでに約200回の実験室を開催し、延べ8,600名の子どもたちに科学教育を実施してきた。

この活動から派生して、2011年の東日本大震災のときにはその翌年に「被災地における理科支援事業」を実施し、石巻市内の小学校5校で実験室を開催している。この事業は、一般社団法人国立大学協会（国大協）の震災復興・日本再生支援事業の採択を受けて、当時交流のあった大分大学、名古屋工業大学、東北大学、岡山大学の技術組織と連携して実施している。能登半島地震の発生以降、いくつかの大学と交流する機会があり、被災地に対する思いを共有することができたことから新たな理科支援プロジェクトを発足することになった。2024年11月頃から本学技術部長への事業説明を皮切りに本格的な準備が始まった。

3. プロジェクトの企画・立案

今回実施する理科支援プロジェクト in 能登は2012年に実施した事業をベースに内容を企画した。過去の事業では、計4日間で延べ33名の職員を石巻市に派遣し、5つの小学校で7回の実験室を開催している。今回対象とする能登半島は、小学校数に加えて児童数も石巻市に比べて少ないため、中学校も開催対象としている。実施内容の詳細を立案する際に最も問題となったのが予算の確保である。2012年の事業では数百万円規模の費用が計上されており、国大協の採択費と学内経費で運用されていた。しかし、国大協の事業は既に終了しており、同規模の費用を学内のみで確保するのは不可能となっている。そこで、近年注目が集まっているクラウドファンディングを利用し、主に現地での活動費（実験消耗品費やレンタカー借上費など）に充てることにした。

4. クラウドファンディングの準備

鳥取大学ではクラウドファンディングを運営するREADYFOR株式会社と2023年から公式に業務提携を結んでおり、クラウドファンディングの実施には以下の手順で学内及び運営会社の手続きが必要となる。

1. 部局の教授会相当の委員会で審議・承認
2. 大学執行部会へ報告
3. 大学長へ申請・許可
4. READYFOR プロジェクトページの審査
5. プロジェクトの公開

READYFOR株式会社のクラウドファンディングにはAll or Nothing型とAll in型の2つの実施方式があり、本プロジェクトではAll in型を選択した。前者は目標金額に達した場合のみ支援金を受け取れ、後者は達成に関わらず支援金を受け取ることができる。All in型は支援金が1円でもあれば受け取ることができるが、プロジェクトページに記載した実施計画を確実に実施する必要があるため、自己資金の準備が必要となる。

クラウドファンディングにおいては多くの人に活

動を知ってもらうことが支援獲得につながるため、広報戦略が最も重要となる。今回活用した主な広報手段は、メールや SNS での情報配信に加えて、大学広報誌へのチラシ折り込みと技術研究会などでのアナウンスである。鳥取大学では広報誌を年 4 回発刊しており、それを在校生の保護者や県内外の高校、



図 1. クラウドファンディングのアイキャッチ画像

名誉教授などに延べ 7,500 部を配布している。さらに 3 月には総合技術研究会 2025 筑波大学が開催されるため、対面で直接支援を求められる機会となる。これらの機会を活用するため、プロジェクト公開とチラシ印刷を 2025 年 2 月下旬までに完了ように準備を進めた。クラウドファンディングのページに掲載した画像を図 1 に示す。共同で実施する 6 大学のロゴを使用するための許可申請だけでも 1 か月以上を要し、特に実施手続き 4 の運営会社審査は何度も差し戻されて思うように進まなかった。本プロジェクトの審査で主に指摘されたのが、支援金の総額に応じた実施計画を具体的な数値で示すことであった。このときは、協働する大学においても予算や人員を確定していなかったため、本学のみ予算と人員で実施可能な最低限の計画を記載することでプロジェクトの審査通過とページの公開を予定通り進めることができた^[1]。

5. クラウドファンディングの実施

今回のクラウドファンディングは 2025 年 3 月 3 日から 4 月 30 日の期間に実施した。3 月 3 日の公開と

同時に各大学ウェブサイトへの記事掲載や各技術職員が所属する団体への案内配信を行った。支援依頼の案内では、一般的に SNS やメルマガなど不特定多数への配信が支援率 0.01~1%、知人や友人への連絡が支援率 10~30%とされている。そのため、各大学の教職員メールや連絡掲示板、国立大学法人機器・分析センター協議会などの SNS で案内を配信できたことで多くの支援獲得につなげることができた。支援募集期間中におけるプロジェクトページ訪問者数とそこから支援につながった人数、および支援達成率の推移を図 2 に示す。メールや SNS を用いた案内配信は定期的に何度も行っていたが、期間中盤あたりからは新規支援の獲得に至らなかったことから、繰り返し案内が悪影響になると考え、終盤まで配信を

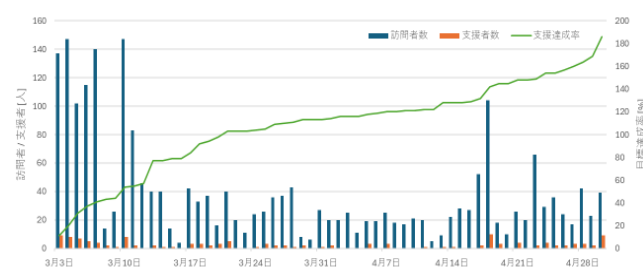


図 2. ページ訪問者数と支援者数、目標達成率の推移

中止した。また、協働する各大学でも独自に広報を展開し、学長定期記者会見での案内や地元新聞への掲載、ラジオ番組出演などを行った。これらの広報活動によりページ訪問者の総数は延べ 2,273 名、支援者数は 135 名（のちに 1 名キャンセル）となった。また、支援総額は目標の 50 万円を大きく上回り 93.3 万円を集めることができた。

6. おわりに

現在、実施に向けて準備を進めている「理科支援プロジェクト in 能登」におけるクラウドファンディングを用いた活動資金獲得までの経緯を紹介した。協働する大学と連携して広報活動を展開できたことで、目標を上回る支援をいただくことができた。クラウドファンディングという手段は、不確定要素が多く、準備・

実施の負担が非常に大きいですが、大学の財政難を考えると有用な手段の一つであると考えている。

本プロジェクトは、能登地域での実験室開催校の調査、活動日程の調整が完了し、各学校とのタイムスケジュールや実施実験テーマの調整などを行っている（2025年8月末現在）。全国から寄せられた思いを能登地域の子どもたちに届けるため、本学をはじめ協働する6大学が一丸となって準備を進めていく。

謝辞

国立大学法人機器・分析センター協議会をはじめ、クラウドファンディングの広報にご協力いただきましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。また、本プロジェクトの趣旨にご賛同いただき、共催として準備を進めております金沢大学、名古屋工業大学、東北大学、神戸大学、大分大学の皆様にも、重ねて深く感謝申し上げます。

参考文献

- [1] READYFOR, “6大学合同プロジェクト | 科学体験学習で能登の未来に笑顔とエールを！,”
<https://readyfor.jp/projects/151852>.

Discord のチャンネル増加中

Discord のチャンネルが増加中です。気になるチャンネルをチェック！

- ・長崎（総会・シンポジウム・技術職員会議）
- ・分析相談なんでも
- ・NMR 相談チャンネル
- ・フローサイトメーター
- ・DNA シーケンシング
- ・元素分析
- ・質量分析 ms
- ・【終了】（新潟）総会・シンポジウム-フリースペース
- ・幹事会への意見・質問・ゆるい雑談
- ・会長のつぶやき
- ・医学・生物系広場
- ・共用機器の管理運営

- ・企業との連携について
- ・セミナー情報等
- ・リユース情報
- ・公募情報
- ・協議会小集会



Discord 招待二次元
バーコード

-----Discord への登録方法-----

下記のリンクは国立大学法人機器・分析センター協議会の Discord の招待リンクとなっております。

<https://discord.com/invite/2w9CU4Asw7>（本招待リンクは招待期限なしとなっています。）

X (Twitter) もあります。

X (Twitter)で最新情報を配信しています。

<https://twitter.com/kikikyogikai>



協議会 X 二次元
バーコード

お願い

ご意見募集

このニュースレターや協議会活動についてお気づきの点がありましたら、Discord または下記のメールアドレスにてご連絡ください。

連絡先：kiki_kanjikai@googlegroups.com

国立大学法人 機器・分析センター協議会 ニュースレター No.15

発行日：2025年9月30日

編集：国立大学法人 機器・分析センター協議会
広報委員会

発行：国立大学法人 機器・分析センター協議会

連絡先：kikikyogikai@gmail.com

Website: <https://jcrea.jp/>

メーリングリスト：kiki_ml@googlegroups.com